

医療福祉連携士としての取り組み

地域医療連携室 師長 藤原 亜紀



高齢者が安心してその人らしく地域で生活を送るには、継続した医療・福祉の支援が必要不可欠となります。それぞれの医療機関や福祉施設の役割は明確であっても「どこ」に「どのように」繋ぐか、その役割を担う医療従事者も選択肢に苦慮する所かと思えます。

当院でも外来診療に来られた独居や高齢世帯の方々が、今後の生活に不安を抱え相談窓口に来られることが増えています。

実際、日々の生活に支援が必要な状況に自ら気付いていないケースや実子であっても相談し難

い背景があるのを感じております。

日本医療マネジメント学会認定となる「医療福祉連携士」は医療と福祉を繋ぐ役割があり、高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援を目指し、地域の情報提供に努めております。疾患のみに捉われるのではなく、その人の生活に焦点を当て、身近な相談窓口として安心できる生活環境を提供できるよう努めております。

今後も院内外のスタッフとのコミュニケーション・交渉力を持って、患者さんやご家族の思いに添える連携を図りたいと考えます。



がん化学療法看護認定看護師の活動

がん化学療法看護認定看護師 山口 育子



がん化学療法の進歩により、仕事・家庭と治療が両立できる時代になってきました。

認定看護師は、患者さん・ご家族に対する医師からの説明(がん告知、治療選択等)に同席し、情報の整理や理解の確認、想いの傾聴に努めています。

外来化学療法室では、患者さんへの安全な薬剤投与を管理し、副作用マネジメントやセルフケアを通じて、その人らしい生活が送れるよう支援しています。例えば、爪や皮膚障害に対する清潔・保湿・保護の具体的な提案などです。

(年間外来化学療法件数 1050 件／患者数 105 名)

病棟では、初回入院治療後、外来化学療法に移行する方が多くいらっしゃいます。安心してもらえるよう事前にオリエンテーションを実施します。

退院後の副作用への対応として、脱毛については患者さんの受け止め方を確認し、ニーズに合った情報提供を行っています。後日、「聞いていた時期に髪が一気に抜けた、準備ができて良かった」との声を聞きました。今後も、入院時から関わり支援していきたいと思えます。

